

会 議 録

会議の名称	西東京市図書館協議会 令和3年度第1回臨時会
開催日時	令和3年10月14日（水）午前10時から正午まで
開催場所	田無第二庁舎2階会議室
出席者	委員：島会長、鈴木副会長、柴田委員、山辺委員、長谷川委員 上田委員、福士委員、野崎委員（欠席）緒方委員、東山委員 事務局：徳山館長、司城副館長、金本庶務係長
傍聴者	1名
議 題	1 諸報告 2 令和2年度西東京市図書館事業評価について 3 その他
会議資料の名称	資料1 令和2年度西東京市図書館事業評価（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
資料の確認・前回会議録の確認 ○会長：では第1回臨時会を開催します。次第の1諸報告を事務局から。 ○館長：9月議会で図書館に関する質問がありました。 ①図書除菌機に関して2人の方から、耐久性と効果に関して。 ②図書館事業概要から、登録率の低下の原因と登録率の低下に反して一人当たりの貸出冊数には変化がない点について。また最近10年間で減少していることについて分析内容について。 ③除籍資料の内訳、特に児童書の除籍の流れと除籍後について。 10月1日から緊急事態宣言の解除にあわせて、リバウンド防止期間となりました。図書館では制限を外すことはできませんが、一部緩和をしました。滞在時間を1時間程度という目安に変更し、座席を配置しました。イベントもオンラインでできるものをはじめ、子ども向けに科学ワークショップを開催予定です。おはなし会については各館の状況に応じて、対策を講じた上で徐々に再開しています。今後も少しずつ元に戻していく方向で検討しています。 前回お話のあった、工事図面は最新のものを入手出来ておりませんが、大きく	

変わるところとしては1階開架室で雑誌架と文庫架を新しくして収蔵能力を高めることにしています。トイレと空調も取り換えを行いました。図面の用意ができましたら改めてご報告いたします。

司書の採用試験が実施中で1次試験が先日終わり、来週2次試験を実施します。来年4月に新しい職員の報告ができればと考えております。

○会長：何かありますか

○委員：最後の司書の採用については、例えば年齢的に何か枠を設けるようなことを考えているか。

○館長：募集の範囲は年齢的に幅広く設けており、卒業見込みから29歳までの枠ですが、年齢層で何人ということは特にありません。

○委員：4人という比較的大きな採用をされるというのは退職される司書を補充ということか。

○館長：中央図書館休館に合わせて退職した方の分を4人減で運営しており、その補充です。

○委員：司書率はとても高いのでそれを維持してほしい。文庫架はデザイン等いろいろと考えた中で導入したけれども、無くなるのか。

○館長：文庫架は入れ替えとなる。新中央図書館をつくるときにはデザイン性も考慮し収蔵能力も増やしたい。

○会長：次第2、令和2年度西東京市図書館事業評価について
前回事務局から説明を受けて、それぞれの評価を事務局に送っていただき、そのまとめが本日配られたというところです。項目ごとに確認します。

○館長：本日は主に評価をしていただき、次回完成の流れでお願いします。

○会長：それぞれの意見が違うところを協議会の意見としてまとめて文章化を私が行いますので、それを次回に提案をして最終確認をする流れにします。

○委員：最初に確認です。昨年からこの方式になり目標には番号があるけれども協議会としては基本方針ごとにまとめて評価するという話だったと思うが、それでよいか。

○委員：私もそれは聞いていたが、番号を合わせて振るほうが書きやすいのでそうした。最終的にまとめていただければよい。

○委員：今日はこの形で、会長にまとめていただくということか。

○副館長：基本的には最終的な評価を決める、意見の違うところを話してまとめる、というところを今日行います。

○会長：そういうことでお願いします。

基本方針1について

○会長：（皆さんの評価は）全体的にはよい、気になるところがいくつかある、というところです。

○副会長：マルチメディアデイジーについての評価です。

○会長：今度マルチメディアデイジーの作成ソフトを入れて、これから展開をしていくというところです。

○委員：普及のためのマニュアルを作成したが具体的な事業実施のマニュアルができていない。目標のマニュアルができなかったわけではない。

○副会長：保谷駅前図書館で一般の方も利用できるマルチメディアデイジーの展示をしている。少しずつ貸出しの方向にも動いているのか。去年はその前の前の段階か。

○館長：昨年まではPRをしていない。令和2年度は学校に出向き、まず先生方、あとは保護者の方を含め普通の文字を読みにくい児童生徒にこういった本を楽しめるものがある、ということを伝える予定でした。著作権の関係で、一般の方も見ることでできる資料を、学校で紹介してマルチメディアデイジーがどういうものか、いろいろな使い方も含めて実際に必要とする児童生徒に図書館では本を楽しむことがこういった形でもできるということを伝えることが2年度の考えでした。そのためのマニュアルは作れたのですが、実際には学校とのやりとりをすることができなかったということがあります。

○委員：普及のためのマニュアルは作成したが、具体的な行事に対応したマニュアルはできなかったという回答でしたのでそれは今後作成するのかなと思い、評価をした。

○委員：私もマニュアルを作ろうとしていたができなかったと読み取れたのでこの状況でもマニュアルの作成はできると思いBにしたが、もし違っていたのならAでもかまわない。

○委員：私もBまたはAとしたのですが、一次評価がBなのでそこを尊重したのですが、ある程度実現されているのでAでもよいのかなと思いました。

○会長：マニュアルについては行き違いということではいいですか。目標自体は利用マニュアルの作成です。これはできたということで、具体化するところのマ

マニュアルはできていないと。

○副館長：はい、普及マニュアルはできています。委員のお話されたようにマニュアルを作った以外のことが何も進展しなかったというところが、目標には記載がないけれど、反省点でした。

○会長：コロナ禍で学校に行けなかったというところですか。

○副館長：それもありますが、現在図書館で用意しているソフトを使って、マルチメディアデイジーを普及につなげる道筋が描けていない。マニュアルは作成したが、マルチメディアデイジーのニーズをどこまで相手側に踏み込んで把握していけるのか。ニーズの掘り起こしができるのか、といったあたりが具体的に何も進まなかったところでBとしました。

○委員：この事業は、実際にディスレクシアの児童・生徒がいるだろうという、潜在的なニーズがあることを前提として取り組まれているものだと思う。現在マルチメディアデイジーを利用したいというニーズがあまり出てきていないからといって、それは待っていても出てこないのではないかな。図書館の側からもっと積極的な働きかけが必要だと思う。また現状のコンテンツが貧弱だという点については、電子化された紙芝居をマルチメディアデイジー化するとか、図書館自身が地域に密着したものをコンテンツの中に入れていくということで充実させて欲しい。

○会長：マルチメディアデイジー作製ボランティアを組織すると思っていた。

○副館長：現在のボランティアの中からマルチメディアデイジーの作製にもかかわる方を職員と一緒に研修していくことは考えている。

○副会長：マルチメディアデイジーの教科書を使用しているお子さんは市内にまだいないのですか。

○委員：ほとんどいないと思います。教育委員会から話は来ているが、本校でもいません。使うと効果があると思われる児童がいたとして、マルチメディアデイジー教科書があることを伝えるけれども、こちら側から勧めることはなかなか難しい。図書館から学校にいろいろと広めていただけたら良いと思います。

○副会長：面白いものだと子どもが最初に感じ取ると、きっと教科書もそうなりと便利だな、となっていくと思う。

○委員：本を好きな子はとても多いので、図書館に来た時にそういったものに触れられたらいい。簡単に内容が入ってこない子にもいろいろな手を講じて支援をしていますが、いろいろと難しいところもあります。特別支援教室のS教室とかL教室では使いやすいと思います。

- 副会長：そういうところと図書館が連携できると具体的に進むとか。
- 委員：そうですね。
- 会長：伊藤忠のマルチメディアデイジーは全部使えますね。
- 館長：それもそうですし、市販のマルチメディアデイジーも購入しています。以前から教員研修で図書館にいらした方にはマルチメディアデイジーの話を必ずするようにしており、先生が知っているそれが助けになるお子さんがいたときに、話をするきっかけづくりになるので学校でも話を広めてください、といったことを伝えています。教科書以外のところで図書館としては支援をしたいと考えています。
- 会長：日本のディスレクシアは7.5%くらいということですから、潜在的ニーズはあると思います。それをうまく図書館側が働きかけて連携ができるとよいですね。目標からすると達成しているので、Aとして3項目をまとめます。
- 副会長：児童書ノンフィクションについて、他の自治体の図書館などであるものでも1冊もないとか、逆に複本が10冊以上というものがある。資料の収集基準に沿うものを選ぶのは当然だが、新たなものの収蔵には分野に目を配っていただきたい。一方で図書館でこそ、今はこういうことがわかってきたが、かつては違うとらえ方をされていたことも当時の資料で遡れる。最新の資料と変遷を遡れる資料を共に使いやすく持っていてほしい。
- 会長：保存に当たってはノンフィクションにも配慮してほしいと盛り込みます。
- 基本方針2
- 会長：ここは皆さんA。宅配サービスは人数も増えている。
- 副館長：はい。これは順調でした。
- 会長：多文化理解のためのサービスは、おはなし会を実施した。
- 委員：すごく努力をしている。おはなし会が11回、親子で29組が少し少ないが絵本で楽しむ英語の世界は満足度がよかった。アイヌ展示は満足度が低かった。あとは日本語学習コーナーの利用が進んでいないかなと。前の年少し後退したような印象を受けました。おはなし会の回数は多かったのですが。図書館がBとしている中でいろいろと対面でできなかった、でもいくつかはオンラインでできたものがある。できなかったが結構多く感じられて、この状況になって2年目なので年度の後半はもっと何かできなかったのかという思いもあり、Bにした。
- 会長：図書館はどのあたりでBとしたのか。

- 副館長：目標に対しての取り組みが、いろいろチャレンジしている部分と、代わりのものを行っているけれど、目標と照らし合わせた時に判断が難しいところがありました。
- 会長：具体的には宅配はいいとして、どのあたりが。
- 副館長：講演会・講座に関しては、何もしていないわけではなく、できることには取り組みましたが、目標に対応して達成できたわけではない。
- 委員：気になったのは、やったことへの効果としてこれでよかったのか、もっとやりようはなかったのかというところです。
- 会長：大変な時だったとは思いますが、もう少しやりようがあったのではないかと、いうところですね。
- 委員：私も、与えられた状況でいろいろ対応したということでAと評価する。自己評価がBなのは、必ずしもネガティブな意味ではなく、予定した活動を完璧にはできなかったということなのではないか。
- 副会長：11回で親子29組ということは1回3組くらいですね。
- 館長：回によっては集まらないこともありました。図書館の中ではできなかったので公民館で窓のある部屋を使用して限定した形で対応したのですが、来ていただいた方にはいろいろと体験していただき、楽しんでいただけました。
- 会長：今の話で一人一人が大事だと思います。それをつなげたのはすごくよかった。
- 委員：5か月間で11回というのはすごいと思います。
- 副会長：止めないで続けたのはすごくよかった。
- 館長：普通のおはなし会ができない期間、担当はこういう時だからこそ多文化理解の会はやらないと意味がない、だからやらしてほしいと強い思いがあり、進めた事業です。
- 委員：アイヌ文化がちょっと低かったですね
- 副会長：アイヌ文化はとても大事ですが、外国の話もそうですが、私たちのルーツにもかかわる話で、取り上げて、満足度が60%というのはとても残念。
- 会長：これは資料展示ですか。

- 館長：ブックを用意して資料などを展示する。本を読んだ人が感想をかけるようなものを付けて展示をしました。ただ展示するだけでなく、読んだ方の感想等を集めることができるようにしたというのが今までと違うところです。
- 副会長：私はこの展示を見に行けず、やっていたことも気づかなかった。
- 館長：PR不足かもしれません。
- 委員：今聞けば非常に行きたいようなものが多くてこれは失敗したなど。
- 委員：こういうものほど多摩六都科学館が扱ったりするので共同でやるともつと良いかと。若い人たちはゴールデンカムイを読んでいるのである程度分かるので、そこをもう一步深めるようなものとか。
- 副会長：熱源もありましたしね。
- 委員：私も日本全体の中で、沖縄やアイヌなど、なぜそのようなテーマを選んだのか興味がある。民放テレビで放送に差別的な内容が含まれていたことが問題になったが、若い人を中心にそのような問題がほとんど理解されていない。だからそういうものを取り上げてみようということだったのだろうか。
- 館長：その報道の前のことで、他の自治体で展示の方法を見たことがきっかけです。その時の展示もアイヌに関してということで多文化の担当者が自分も学ぶ中でこのテーマを選んだ。
- 委員：文化センターウポポイのこともあるのかなと思いました。
- 委員：いずれにしても職員が学んで、意欲の中でこれからも企画が作られていくのであればこれは評価してよいと思う。
- 委員：私が一番言いたいところはICTの活用が遅れている所に対してです。なので頑張っている点に対してはAでもよいと思います。
- 委員：こういう社会状況なのでやりたいことは十分にできない。それに代わる方向を考えたということはある程度評価できる。この状況が続いたとして今後さらに進めていく中でオンラインを使用するとリモートで市民が参加できる企画を行うとか、そういう方向に発展していただけるとなおよい。
- 委員：図書館の方の自己評価では、目標が結果的に達成できなかったのがB評価にした部分があるようだが、当初目標がコロナ禍でできなかったことは不可抗力なので、単純に当初目標の結果評価だけでなく、代替として行った上積みを含めての評価を行うという考え方でもよいと思う。
- 会長：ではAとして、いくつか注文を加えた形にまとめます。

基本方針 3

- 会長：これはみんなAです。図書館もA。先ほど委員からもありましたが、紙芝居のマルチメディアデイジー化は質問の中で考えていないという話がありましたか。
- 副会長：マルチメディアデイジーだと文章と絵が一緒に出てくるけれど、紙芝居はやはり聞くのが一番楽しいからあわないかもしれない。紙芝居自体は絵として流れていく中で芝居でちゃんと読んでもらう方が面白いからあえて文字情報をのせる必要がないのでは。なので今アーカイブで見られるような形でいくほうが紙芝居にはあっている。
- 館長：今回作ったものは絵とお話の間とか、そういったものがあって、その話に合う独特のものでマルチメディアデイジーでは難しい。
- 副会長：マルチメディアデイジーは自分の読みたいペースで音が聞こえて文字とセットでというものだから目的で言えばちょっと違う。紙芝居は本当に絵を見ながら、お芝居を見るので。
- 委員：茨城県立図書館で地域の郷土資料としての紙芝居をマルチメディアデイジーにしているという事例があり、それを見て郷土資料を電子化するというのとマルチメディアデイジー化するというのをダブルで面白い試みだと思ったので、電子化をしているのであればマルチメディアデイジー化として連携させてみたらどうかと。演じるというのとは違いますが、音声と一緒にになっているデータなのでそれなりに絵を見て文字を見て楽しめる。
- 館長：別物としてそれで作るということは大事ですし、西東京でしか持っていないもの、西東京でしか作れないものがあるのでそれが紙芝居だけではなく、西東京の学校で使用している副教材とかは他ではマルチメディアデイジーにはならないので、そういったものを作って役立てるものはあると思います。
- 委員：もちろん教育現場の意見を聞かなくてはならないのですが、郷土学習とも関連して使えるものがあると考えます。
- 副会長：マルチメディアデイジーは使う人が使いたいときに使える。本読んで、と誰かに言わなくても自分で本を読みたいと思ったときに読めるようになるところが一番すごいところだと思う。そういう意味では資料化するということはすごいことだと思う。
- 館長：見た目が違うけど同じものだとみんなに伝えないと普及はしない。
- 委員：紙芝居は第一弾だったのでこれからは音を入れてみたい。
- 会長：いろいろなバージョンができるのですね。

○委員：出前のように持っていき、もっと学校でも活用してほしい。

○委員：マルチメディアデイジーが特別なものじゃないという話で、タブレットである言語を選べるようにしている教育機関があるのですが、それと同じでクロムブックは全生徒児童に配布されているので、そこにマルチメディアデイジーの教材が載っていくと教科書もそういったものになれば教育現場で同じ端末をを持っているわけなので気軽に使えて、その中で使いやすいものを選択する、ということになるとよい。

○会長：先生がいらっしゃるのでお話しできる範囲でどうですか。

○委員：一人一台のタブレットはこの前初めてオンライン授業でやって成功して、思った以上のことができたので、いろんな可能性があるなと思っている。近い将来デジタル教科書が標準化していくと思いますが、莫大なお金がかかることなのでそこはどうかかなと。図書館の企画とかも子どもは1台持っているので学校にいろいろな宣伝が来れば何時何分にあるからお家で見るができるという風になる。オンライン授業が成功したのでいろいろな広がりができると感じている。

○会長：学校からのお知らせだけでなく、図書館からのお知らせとか。

○委員：それもできます。保護者の方にはこれから目を通していただきたいくて、タブレットを使いすぎてタブレットから離れられなくなるとかそういった点はすごく心配しています。やはり保護者の管理の下でやってほしいし、そうすれば図書館とか体育館とかいろいろなところからの情報が子どもに入ってくる。

○副会長：成長過程にいいのかどうかはありますけど。

○委員：デジタル教科書が広がるかどうか。

○会長：デジタル教科書と紙の教科書を残す形ですか。

○委員：今現在は紙の教科書だけです。デジタル教科書は高価なので全校に入れていくのはかなり予算がかかる。例えば社会の教科書で記載されているところでその資料をクリックするとその資料集のところが出てくる、そういう風になると文科省からは話が来ています。同じように市のいろいろなものをタブレットで利用するのは可能だと思います。

○委員：今は自由にあちこちアクセスできるようにはなっていないと思うので、図書館の資料にはアクセスできるようになるとか、そんな形で少しずつ開かれていくとよい。

○委員：ヤフーとかはあるので検索すれば図書館にアクセスすることはできる。

○委員：NIMICでは日本語学習をオンラインでしようとしたが、アプリの追加ができないとか制限があるので、ヤフーにアクセスできるということは意外です。

○委員：調べ学習用です。

○委員：それはキッズヤフーですね

○委員：はいオリパラのことを調べてタブレットでまとめていたので大丈夫だと思います。

○会長：ではAでよいですかね

基本方針 4

○会長：みなさんAですね。最後のところに追加があるところですか。

○副会長：お楽しみ袋を年代別につくってもよいのでは、がひとつ。すいせん図書の中身の更新をしてもよいのでは、というのがふたつ。

○副会長：学童や児童館は学校とは全く違う、生活とか遊びの場なので、そこで求められているものはたぶん、学校の欲しいものとは違うと思うのでそういうところをなんとかしてほしい。

○館長：もうちょっと次のバージョンアップはしてほしいという要望はあってもよいと思います。

○副会長：3歳児フォローはこの先どうなるのか。

○館長：相手の状況がまだわからないので決まっていません。

○副会長：検診自体が予約を取ってきちんと人数でやるようになっているのではないぶん違っています。

○会長：おおむねAの内容でまとめてそのあとに提案を付け加えるということにします。

基本方針 5

○会長：みなさんAですね。

○委員：宅配ボランティアを最初一緒に職員が宅配に行くということなのでそういったことが増えれば増えるほど、いわゆる図書館業務と違うところが大変。

○副会長：音訳ボランティアも責任のある仕事で、その分とてもきついらしく、時々限界を感じているようです。職員も大変だと思いますが、ボランティアも

大変だと思うので、無理をしながら続けるのではなく、どうしたらうまくいくのかというところを定期的に見直していただけるとよい。

○委員：職員と市民、直接の触れ合いが大事だと思う。昔は宅配を職員がやっていて、いろいろな要望を受け止めていた。職員は大変かもしれないけれどそういうところに出ていく必要性はある。

○委員：そこも大事ですが、仕事がプラスになる部分についてきちんと考えてくださいということです。

○会長：宅配はどういう形ですか。

○副館長：いろいろですが、ネットで予約をしてそれをボランティアが届けることもあれば、電話があって、それに応じて担当職員が本を選んで届けることもあります。毎週定期的にいく方もおりますし、予約対応のみで月に1回あるかどうかという方もおります。ボランティアも次はいつかと待っていることもあります。

○館長：実際にネットで予約の場合、直接会話することもないが、基本的には電話のやり取りがある。そうすると声の様子で元気がないなとか、本以外のところでお互いのつながりを感じており、このやり方をしてよかったなと思っただけしている。そうして本が読めるというところにつながっている。担当は負担ということではなく、他の業務があるとしても、この仕事はこれが基本、という考えでいます。ただ今後、宅配利用者の数が増えたときに。初回は必ずご本人確認を担当職員がすべき点があり、それをどこまで追えるのか、と考えています。音訳者の方も高齢化してきており、育成も進めていますが、途中で断念される方もいますし、逆にベテランの方が後輩への指導される中でそのつながりからやめられないというお声は確かにある。そういった懸念事項があるが、そういうときにも担当は対応するようにしなさい、という前向きなご意見をAだけどAに満足しないように、という意味を込めていただければと思います。

○会長：Aでまとめてそれに職員もボランティアも継続できる体制を整えること、職員も市民の中に入っていくことも大事なので、事業にきちんと参加するというのを加えます。

基本方針6

○会長：みなさんAですので、A、プラスアルファICTのところと専門研修のところを付け加えるということでよいですか。
今の話をまとめてみなさんの方にお送りして次回最終決定します。

次第3 その他

○館長：前回話をした視察は、事務局の提案としては昨年行けなかった浦安市立

中央図書館が第1希望と、第2希望は前回副会長からお話の出た、昭島市立中央図書館。それ以外に希望があれば、次回ご提案ください。日程は目標2月ということで進めます。皆さんの予定も次回分かる範囲でお願いします。

○会長：よろしいですか。

○委員：基本方針3のデジタルアーカイブの話ですが、前回柴田委員から写真のアーカイブについてご提案があったと思います。協議会としては写真のアーカイブについてここでデジタルアーカイブの中に入れていく、というようなことを事業評価と絡むのかわかりませんが、少し頭の中においていただけるとよいと思いました。

○会長：具体的にいれますか。

○副会長：次回会議の2週間前くらいに作成いただいたのをまわしていただくということでよいですか。

次回11月25日（木）午後2時から 田無第二庁舎 5階会議室